

令和 8 年度第 2 回
高知県文化芸術振興ビジョン評価委員会
次 第

日時：令和 8 年 8 月 18 日（火）15:00～17:00

場所：県立高知城歴史博物館 ホール

開 会

議 事 高知県文化芸術振興ビジョンの改定について

- ① 第 1 回評価委員会における委員等意見への対応
- ② 県立文化施設との意見交換及び文化振興に向けた意見公募の結果
- ③ 第 2 期高知県文化芸術振興ビジョン（素案）

文化振興課 説明（30 分）

意見交換（70 分）

閉 会

令和 8 年度高知県文化芸術振興ビジョン評価委員会（第 1 回） 委員等からのご意見への対応方針

No.	項目	内容	対応の方向性など
1	基本理念	現ビジョンの基本方針 1 と基本理念については重複している部分があるのではないかと。	・基本方針 1 を「文化芸術を身近に感じることができる環境の充実」に修正予定。
2	基本理念	基本理念は慎重に考えていく必要がある。教育現場でも、「心豊かな子どもを育てる」という目標を立てることが一時期はあったが、心豊かな子どもとはどのような子どもか非常に曖昧で、人によって考えていることが変わってくる。基本理念をどうするのかは今後も話し合う機会があると思うので、どうするのかは検討が必要。	・事務局案としては、現ビジョンの基本理念の考え方は網羅的かつ普遍的なものであることから、基本理念は継続する案をお示しさせていただいたところ。 ・県民に基本理念の主旨が伝わるよう、基本理念の考え方をできる限り丁寧かつ具体的に記載予定。
3	対象範囲	ビジョンの対象範囲を広げすぎると、もはや県の総合行政そのものみたいになってしまう。対象とする範囲はある程度絞った方が県民にわかりやすいものになるのではないかと。	・次期ビジョンの範囲については、文化芸術基本法で挙げられている各分野を基本とする。ただし、ビジョンに基づく主な施策については、県が取組を推進するものを範囲とする。
4	対象範囲	所管部署が異なるかもしれないが、動物園も博物館であるのに、文化施設ではないのか。	・次期ビジョンの範囲については、文化芸術基本法で挙げられている各分野を基本とする。ただし、ビジョンに基づく主な施策については、県が取組を推進するものを範囲とする。 ・博物館法改正により法の目的に「文化芸術基本法」が追加されたことを踏まえ、県立の登録博物館（「相当する施設」含む）もビジョンの対象とし、登録博物館であるのいち動物公園をビジョンの範疇とする。 ・なお、県立の登録博物館（「相当する施設」含む）及び文化芸術の振興を主目的としている県立の文化ホールを対象に、施設ごとの「果たすべき」を次期ビジョンに掲載予定。

令和8年度高知県文化芸術振興ビジョン評価委員会（第1回） 委員等からのご意見への対応方針

No.	項目	内容	対応の方向性など
5	対象範囲	現ビジョンについて、対象範囲の曖昧さを感じる。高知県が文化芸術によって過ごしやすい、若い人たちも住みやすい、外からも人を呼び込める地域にしていこうというのであれば、もっと県全体として、 <u>大きなビジョンをここに書くべきではないか。</u>	・次期ビジョンは、人口減少対策のマスタープランである「高知県元気な未来創造戦略」を文化芸術の観点より補完する個別計画であり、その他の県の関連する計画との整合を図りながら策定。 ・次期ビジョンの範囲については、文化芸術基本法で挙げられている各分野を基本としつつ、ビジョンに基づく主な施策については、県が取組を推進するものを範囲とし、本県の文化芸術を取り巻く状況等を踏まえ、文化政策の方向性を示すもの。
6	対象範囲	世論調査結果の紹介にもあったように、そもそも文化とか芸術に関する施策が、そんなに県民の中で求められていない状況があると思う。そのような状況の中でも、引き続き文化芸術施策を推進していくこととあれば、 <u>文化芸術の範疇は広げていく必要がある</u> と思う。文化や芸術が、様々な分野で、すごく大事にされている、あるいは実際に鑑賞したり、文化財の部分に関わったりしなくとも、 <u>文化芸術振興施策もっと推進していくことによって、地域活性化に繋がったり、経済が潤ったり、産業振興にも結びついていくという視点を持ち、次期ビジョンをつくっていく必要がある</u> のではないかと。そうでないと、前述のように、県民に求められていない文化芸術施策は、もうやらなくてよいという方向に振れてしまうのではないかと危惧がある。	・文化芸術基本法の主旨に「文化芸術の振興にとどまらず、観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業その他の各関連分野における施策を法律の範囲に取り込むこと」が明記されていることを踏まえると、ご指摘のとおり文化芸術が様々な分野と有機的に連動していくという視点は非常に重要である。 ・ご指摘を踏まえ、次期ビジョンにおいては、アーツカウンシル機能の強化などにより、文化芸術による地域づくりや産業振興、福祉、教育など様々な地域課題の解決に資する取組を強化する予定。 ・また、ご意見を反映し、ビジョンの数値目標に「文化芸術が様々な分野（地域づくり、観光、産業、健康・福祉、教育、国際交流 等）に役立っていると感じる県民の割合」を設定する予定。
7	基本方針	<u>基本方針を次期ビジョンは3つに再編しているが、これは県民にとってもわかりやすくなると思うので、賛成。</u>	(ご意見のみ)

令和 8 年度高知県文化芸術振興ビジョン評価委員会（第 1 回） 委員等からのご意見への対応方針

No.	項目	内容	対応の方向性など
8	基本方針	新たな 3 つの基本方針はわかりやすく良いと思ったが、「環境づくり」について、前段に「文化芸術を身近に感じることができる」との文言が付いているため、幅を狭めてしまっているのではないか。「人づくり」や「地域づくり」は大きな範囲で捉えていると思うので、「環境づくり」ももう少し広い言葉がよいのではないかと思う。	・現ビジョンの基本理念の考え方にある「県民一人ひとりの暮らしの足元に文化芸術がある」状況を目指すとの主旨から、「身近に感じることができる」としたところ。 ・捉えている範囲を他の 2 つの基本方針と比較して狭めている訳では無い。
9	基本方針	基本方針 2 だけ「高知の」という文言が入っていることが不思議。	・基本方針 2 を「文化芸術を「支えるひと」を育む」に修正予定。
10	基本方針	基本方針 2 の「人づくり」について、誰もが楽しめる環境を整えるのにあたり、それなりの知識と経験が必要。そのような環境を整備するうえでは、人づくりが重要になってくると思うので、そういったことも踏まえた人づくりを考えてほしい。	・具体的な施策を推進するにあたっては、いただいたご意見を留意のうえ、対応したい。
11	基本方針	文化芸術として対象とするものの良さをしっかり出さないといけない。このための調査研究の充実は非常に大切。次に、そういう良い素材をできるだけ広く知ってもらおう。そして、知ってもらった中で、交流が生まれ、地域の活性化に繋がっていくといったモデルを考えていく方がよい。	・次期ビジョンにおいては、3 つの基本方針に基づく施策を有機的に連動させ、文化芸術振興に向けた好循環を実現させる。

令和8年度高知県文化芸術振興ビジョン評価委員会（第1回） 委員等からのご意見への対応方針

No.	項目	内容	対応の方向性など
12	施策	<u>現ビジョンは、基本理念と方針と主要な取り組みの間の因果関係、上下関係が混乱してるのではないか。</u>	・ご指摘を踏まえ、次期ビジョンにおいては、基本理念と方針と主要な取り組みの間の因果関係、上下関係を意識し、策定予定。
13	施策	骨子案にある、基本方針2③「歴史人材の育成」について、これは歴史の調査者を育成するのか、伝統芸能の担い手を育成するのか、どのような取組をイメージしているのか。	・高知城歴史博物館では、地域の歴史資料の調査や博物館の展示活動を支える人材の育成を行っている。 また、高知県史の編さんでは、歴史資料の調査研究を担う事ができる人材の育成を行っているところ（委員会内で回答済み）。
14	施策	基本方針3の（1）～（3）の並びについて、文化財があつてこそ活用ができるので、順番としては（2）→（3）→（1）になるのではないか。	・ご指摘を踏まえ、順番を入れ替え。
15	数値目標	ビジョン全体を貫く数値目標（案）について、ここで言う県民の割合が何%ということ、基本理念に掲げる「心豊かに暮らせる」ことが直結するのか。	・基本理念（考え方）に掲げる、「 <u>県民一人ひとりの暮らしの足元に文化芸術があり、多くの県民が自由に文化芸術に関わることで幸せを感じられる高知県</u> 」を実現するため、加えて、人口減少の影響により弱まる地域活力の向上に向けて、文化芸術を活用した地域の振興が大切であるため、数値目標として①日頃、文化芸術に触れる機会（鑑賞など）がある県民の割合、②日頃、文化芸術活動（演奏、創作など）を行っている県民の割合、③文化芸術が様々な分野（地域づくり、観光、産業、健康・福祉、教育、国際交流 等）に役立っていると感じる県民の割合を設定するもの。これにより、達成状況を確認できるものとする。

令和8年度高知県文化芸術振興ビジョン評価委員会（第1回） 委員等からのご意見への対応方針

No.	項目	内容	対応の方向性など
16	数値目標	事業の評価にあたっては、イベントの実施地域や、予算、広報の仕方など、事業実施のプロセスの検証も大切。	・次期ビジョンの進捗管理シートは、ご指摘の点にも意を用いて作成したい。
17	数値目標	県民世論調査からもわかる通り、県民の文化芸術やスポーツの振興に対するニーズはかなり低く、経済の活性化や地震対策、少子化対策等に対する期待が高い。文化芸術の振興に対する期待を高めるには、 <u>ニーズの高い政策のうち、文化芸術との関連付けが可能なものとの連携を深める必要。</u>	・文化芸術基本法の主旨に「文化芸術の振興にとどまらず、観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業その他の各関連分野における施策を法律の範囲に取り込むこと」が明記されていることを踏まえると、ご指摘のとおり文化芸術が様々な分野と有機的に連動していくという視点は非常に重要である（再掲）。 ・ご指摘を踏まえ、次期ビジョンにおいては、アーツカウンシル機能の強化などにより、文化芸術による地域づくりや産業振興、福祉、教育など様々な地域課題の解決に資する取組を強化する予定（再掲）。 ・また、ご意見を反映し、ビジョンの数値目標に「文化芸術が様々な分野（地域づくり、観光、産業、健康・福祉、教育、国際交流 等）に役立っていると感じる県民の割合」を設定する予定（再掲）。

令和 8 年度高知県文化芸術振興ビジョン評価委員会（第 1 回） 委員等からのご意見への対応方針

No.	項目	内容	対応の方向性など
18	数値目標	私案として、「基本理念：文化芸術の力で、魅力と活力にあふれる高知県」を掲げ、基本理念は「1 文化芸術の魅力の向上と発信」「2 文化芸術を楽しむ機会の創出」「3 文化芸術を通じた交流の促進」「4 文化芸術を活用した地域振興」とした。良い素材を出して、それを発信し、それに接する機会をつくり、そこから交流が生まれ、地域の活性化につながる、という流れをイメージしている。これらの中間アウトカムとして、「<u>県民や来訪者の文化芸術に対する関心・期待が高まる</u>」を設定し、測定する指標としては、<u>県民世論調査の「より一層力を入れて取り組むべきもの」</u>を設定する。	・ビジョンの基本理念（考え方）に掲げる、「県民一人ひとりの暮らしの足元に文化芸術があり、多くの県民が自由に文化芸術に関わることで幸せを感じられる高知県」を実現するため、加えて、人口減少の影響により弱まる地域活力の向上に向けて、文化芸術を活用した地域の振興が大切であるため、数値目標として①日頃、文化芸術に触れる機会（鑑賞など）がある県民の割合、②日頃、文化芸術活動（演奏、創作など）を行っている県民の割合、③文化芸術が様々な分野（地域づくり、観光、産業、健康・福祉、教育、国際交流 等）に役立っていると感じる県民の割合を設定するもの。これにより、達成状況を確認できるものとする（再掲）。
19	数値目標	<u>定量評価が難しいところは、定性評価をやればよいと思う。全てについて定量評価はできないと思う。定性評価は、例えばアンケートだけではなくて、インタビューでもよいが、様々な形で実施可能である。定性評価を恐れる必要はないし、大いに活用すればよい。</u>	・ご意見を踏まえ、定量評価に加えて、定性評価として「文化芸術が様々な分野（地域づくり、観光、産業、健康・福祉、教育、国際交流 等）に役立っていると感じる県民の割合」を数値目標に追加。
20	数値目標	<u>可能な限りアウトカム指標を設定するとあるが、アウトカムというのは「状態の変化」を意味する。アウトカム指標はまさに定性測定していかないと、なかなか定量で簡単には測定できるものではない。</u>	・全ての施策でアウトカム指標を設定することは現実的ではないが、県の施策である以上、施策によってもたらされる「成果・結果」を測定し、より良い県民サービスにつなげていくことは重要であるため、可能な限りアウトカム指標の設定に努めたい。

令和 8 年度高知県文化芸術振興ビジョン評価委員会（第 1 回） 委員等からのご意見への対応方針

No.	項目	内容	対応の方向性など
21	数値目標	県立文化施設の価値をもっと上げるため、あるいは県立文化施設をこれからも高知県の文化芸術を担っていく大事な施設として、持続可能にしていく方向を考えていく必要がある。県立文化施設については、そこで単に事業をやって県民に与えるだけではない、別の視点を持っていくことが大切ではないかと思う。そのような意味では、<u>（成果指標については）どのようにして測るか難しいが、対象者の数やイベントの数ではなく、（文化施設などに）行かなくてもよいが、「文化芸術を大事に思ってくれる県民の割合」を測れる指標があればよいと思う。「高知の文化が大切に、産業やまちづくり、教育など様々な分野と結びついていて、大事なんだ」と思ってくれる人を増やすために、施策を進めていく方向に舵が切れないか。</u>	・ご指摘を踏まえ、次期ビジョンの数値目標に、「文化芸術が様々な分野（地域づくり、観光、産業、健康・福祉、教育、国際交流 等）役立っていると感じる県民の割合」を設定予定。

令和 8 年度高知県文化芸術振興ビジョン評価委員会（第 1 回） 委員等からのご意見への対応方針

No.	項目	内容	対応の方向性など
22	アーツカウンシル	本来、アーツカウンシルは文化芸術振興に向けた中間支援組織であり、KAP事業を通じた助成により団体等を支援していく役割を担う組織であることから、<u>文化芸術振興組織であるといった書き方はずれてい</u> <u>る</u>と感じる。それぞれの地域によってアーツカウンシルの役割は違ってくると思うが、基本的な考え方は変わらないと思うので、書き方を見直した方が良いのでは。<u>アーツカウンシルの役割として、人材育成やネットワークの構築はとても重要であると思う。改定の大きな方向性として、アーツカウンシルの機能強化を掲げるのであれば、現状のアーツカウンシルの体制の見直しを図ってもらいたい。現状、実質 1 人体制であり、芸術祭の担当もされているので、ネットワークの構築と芸術祭などの事業推進に係る業務の分担を図るなどを行ったうえで、機能充実を図ってほしい。</u>	・アーツカウンシルの機能として、文化芸術関連の事業を担当するのみではなく、地域づくりや産業振興、福祉、教育など様々な社会課題の解決に向けて活発に活動している事例もあることから、次期ビジョンにおいては、アーツカウンシルの機能強化を検討中。
23	アーツカウンシル	アーツカウンシルが行っている「げいぶんお届け隊」の企画に参加したことがあるが、非常に素晴らしい取組であると感じる一方、広く県民に知られていないと感じる。	・昨年度は、市町村を重点的に広報したため、鑑賞・体験事業の申請が増加した。今年度は、各市町村の校長会や教育関係者が集まる会に出席し、教育現場での広報啓発を進めていく。

令和8年度高知県文化芸術振興ビジョン評価委員会（第1回） 委員等からのご意見への対応方針

No.	項目	内容	対応の方向性など
24	県立文化施設	高知県だけではなく、 <u>少子高齢化により様々な問題が山積しているなかで、それに対抗していくべき部分と受け入れていくべき部分があり、それを上手く分けて、ビジョンに入れ込むことができないか。</u> 例えば、 <u>高知城歴史博物館の取組で、地域における歴史資料の調査を行っており、これは非常に重要な取組だ</u> と思うが、本来であれば県立文化施設にそこまでの取組は求められていないので、取組は評価されにくいのではないかと思う。 <u>ビジョンに記載する取組としては、地域活性化の取り組みでよいと思うが、そのために、失われつつある地域文化の記録をしていくなど、具体的な施策として何をするのかということと、ビジョンを上手に結びつけて、これからの時代も文化芸術の価値というものをきちんと理解してもらえるようなビジョンにしたい。</u>	・人口減少のスピードを遅らせる「緩和策」と、不可逆的な縮小社会に対応し持続可能な地域を維持する「適応策」の2つの取組の視点を、文化芸術施策に関しても持つことは重要。 ・ご指摘のとおり、失われつつある地域固有の文化の継承といった「適応策」と、例えば、地域固有の文化を活用したキャリア教育等による若者定着といった「緩和策」の両方の視点を持って、文化芸術領域における人口減少対策を進めていく必要があり、次期ビジョンにおいても、この点に意を用いて策定予定。
25	県立文化施設	今後、県立文化施設は老朽化の懸念もあるなか、 <u>10年後、20年後も見据え、今後どのように維持していくのかも考えながら、次期ビジョンを検討する必要があるのではないか。</u>	・長寿命化や維持・管理等については、「高知県公共施設等総合管理計画」に基づき、必要に応じて各種対応を実施してきたところ。 ・今後も同計画に基づき、必要な修繕を実施予定。
26	パブリックコメント	基本理念は変わらないとしても、大幅にビジョンが変わるイメージなので、 <u>パブリックコメントを2回程度実施した方がよいのでは。</u> ビジョンが大幅に変わることに対して、県内の文化芸術関係者がどのような意見を持っているのか、可能であれば幅広く意見を聞き、ビジョンに反映させてほしい。	・ご指摘を踏まえ、「高知県のさらなる文化振興に向けたご意見の募集」を実施。（意見募集期間：7/14～8/10 提出意見数：15件）

令和 8 年度高知県文化芸術振興ビジョン評価委員会（第 1 回） 委員等からのご意見への対応方針

No.	項目	内容	対応の方向性など
27	パブリックコメント	パブリックコメントを募集するにあたって、この機会にビジョン改定について広く県民に知ってもらえるよう周知を行い、 <u>県民と一緒に新しいビジョンを作っていくような姿勢が大切。</u>	・ビジョン改定にあたっては、意見公募の機会を増やし、県民から様々なご意見を頂戴した。また、意見公募を通じて、改定に向けた気運醸成にも努めていく。
28	推進体制	県のビジョンであるため、県の役割そして県立文化施設の役割、また、 <u>市町村や市町村立文化施設、民間企業、県民など、県は人の力で成り立っていると思うので、このような様々な主体の役割についても、ビジョンに記載するべきではないか。</u>	・現行ビジョンに役割を記載している「県民」「県」「市町村」については、引き続きその役割を記載。 ・加えて、文化施設とアーツカウンシルの役割を記載予定。
29	推進体制	高知県芸術祭は高知県文化財団が実施されているが、県立文化施設についてはビジョンの中に言及があるにも関わらず、 <u>高知県文化財団についての記載がない。</u>	・現ビジョンにおいて、高知県文化財団に対する直接の記載はないが、県から文化財団に委託している文化施設やアーツカウンシルの取組はビジョンに明記されており、次期ビジョンにおいてもこれを踏襲予定。
30	スケジュール	スケジュール上では、文化施設との意見交換を 2 回ほど開催することとしているが、 <u>文化政策ラウンドテーブル高知からの提言をビジョンにどのように反映させたのか、フィードバックをしかるべきタイミングで行うべき。</u> <u>また、7 月に骨子ができあがったタイミングで、ラウンドテーブルにも意見を伺うべき。</u>	・意見公募やパブリックコメントを通じて、広く県民からご意見を頂戴する。

令和 8 年度高知県文化芸術振興ビジョン評価委員会（第 1 回） 委員等からのご意見への対応方針

No.	項目	内容	対応の方向性など
31	スケジュール	スケジュールにある「若者等への意見照会」について、誰に意見を聞いたかなど、概要を教えてほしい。	・高知大学と高知県立大学の学生計19名から意見聴取。ビジョン全般に関することや、現ビジョンの基本方針毎に、若者の視点から様々なご意見をいただいた。例えば、ビジョン全般に関することであれば、アニメなどの若者に刺さる文化をビジョンに掲げるべきとの意見をいただいた（委員会内で回答済み）。
32	その他	<u>県の総合戦略に対して、文化芸術は寄与できる部分が多いということを示せるようなビジョンにしてほしい。</u>	・人口減少対策のマスタープランである「高知県元気な未来創造戦略」を文化芸術の観点より補完する個別計画であり、その他の県の関連する計画との整合を図りながら策定。
33	その他	文化芸術を県民に提供していくにあたって、ニーズを捉えた企画やイベントを行うことは大切である一方、ニーズを満たしたから全て良いというわけでも無い。企画やイベントを見て満足するだけではなく、それによって <u>違う価値観や捉え方みたいなのが発見できるのが文化芸術の良さでもあると思うので、そこをうまく測ることはできないか。</u>	・事業評価にあたっては、入館者数などの定量評価のみではなく、必要に応じてアンケート調査などを実施し、定性的な評価も行うことが重要。
34	その他	<u>文化芸術の担い手はいるものの、担い手を受け入れてくれる場がないという実感がある。高知で活動できる場がないことから、東京に出て行く人もおり、人材を育成した後、どのように活動の機会を確保するかは重要なポイントである。</u>	・人口減少により今後さらに活動の場の減少が懸念されるところであり、活動の場の確保については次期ビジョンの基本方針 1「文化芸術を身近に感じることができる環境の充実」の推進により、活動の場の充実を図っていく。

県立文化施設との意見交換会における主な意見

◎ 対象：美術館、文学館、県民文化ホール、歴史民俗資料館、坂本龍馬記念館、高知城歴史博物館、牧野植物園

項目	No.	主な意見の概要
1 ビジョン全般		
	1	ビジョンの書きぶりをどの程度の解像度にするのかは重要。個別の取組は現場の裁量で行えるように、ビジョンには文化政策の大きな方向性を記載する程度にとどめるべき。
	2	ビジョンなので大きな方向性を示すことは大切だが、具体的にどのように行動していけばよいかがある程度わかるような書きぶりにしてほしい。大きな方向性だけを示されても、どのように行動すればよいのかわかりにくい。
	3	元来な未来創造戦略との整合性にも意を用いてビジョンを策定してほしい。
	4	中山間地域は本県においては重要な地域だが、行政関係者ではない人が聞いたときに、具体的にどのような地域なのかイメージしにくい。中山間地域が具体的にどのような地域なのか、イメージできるような記載も必要。
	5	県は県民との関係が希薄で、住民により身近な行政サービスを提供しているのは市町村である。県と市町村がどういう関係性で、市町村をどう支援していくかを明確化する必要がある。ビジョンは、市町村が文化政策を考える際の基本となるようなものになってほしい。
	6	南海トラフ地震をはじめ、災害対策に向けた「施設の長寿命化」「資料の保存継承」をビジョンへ追加してほしい。
2 基本方針		
	1	次期ビジョンの基本方針1、2、3はそれぞれが関連しており、施策を連動することで文化振興に向けた好循環を生むものだと思うが、その関係性を「見える化」してほしい。
	2	基本方針2「人づくり」の数値目標が、少し遠い印象。また、基本方針1「環境づくり」に教育普及事業などの子ども関連の取組が入っているが、基本方針2「人づくり」に移動させてはどうか。
	3	3つの基本方針のうち、どれかに過疎化、高齢化、南トラ等を踏まえた「文化財の散逸防止、保存」を明確に位置づけてほしい。
3 数値目標		
	1	・定量評価が目立つが、文化施設の評価を行う際は定性評価も取り入れるべき。定性和定量の両面で評価を行うことが、文化施設評価では一般的。 ・数字では目標に達していなくとも成果があったことをどう明記するか、例えば課題を新たに見つけられたことや、やってみた結果県民にとって需要がないことを発見したこと、参加者がごくわずかでもそのうちのひとりがイベントに影響を受けてその人にとっての人生の分岐点となったことなどがあれば、それは結果として大きなことを生んだと言える。そうした成果も含めて、定量と定性で評価すべき。
	2	資料を収集保存し、調査研究をすることで初めて多様な文化芸術に触れることができる機会の提供に繋がる。この点は各館の共通事項として明記すべき。アウトプットの数値目標として、「調査を●件した」「会議を●回開催した」「論文を書いた」「寄稿した」等が挙げられる。これらのアウトプットが、最終的に「人の心を動かした」というようなアウトカムにつながるひとつのプロセスになればいい。

項目	No.	主な意見の概要
4 県立文化施設の果たすべき役割		
	1	文化庁の方針や法改正によって、博物館も大きく変わらざるをえない状況。各館が一律にすべてやれ、というのは無理がある。例えば、地域連携は城博が中心で、龍馬館はが●中心、歴民館は●が中心、というように各館の特性を踏まえた役割分担は大切。
	2	全施設に共通する役割を記載したうえで、施設ごとの果たすべき役割を明確化し、差別化を図る必要がある。現在各館が実施している事業内容から役割を導くのではなく、本来のあるべき姿から役割を導くことが必要。
5 文化芸術振興の推進体制		
	1	アーツカウンシルの体制の充実を課題として挙げられているので、 <u>アーツカウンシルが組織としてしっかり機能するよう、ビジョン改定を契機に取り組んでほしい。</u>
	2	<u>信州アーツカウンシルは、県内の小規模博物館同士のつなぎ役として機能しており、毎年5館程度で連携して巡回展を開催している。地方のアーツカウンシルとしては精力的に活動している印象。</u>

高知県のさらなる文化振興に向けたご意見の募集 意見概要

◎ 意見募集期間: 7/14～8/10 ◎ 提出意見数: 15件(個人)

※便宜上、要約を行ったうえで意見の種別ごとにまとめ直しております。

項目	No.	意見の概要
ビジョン全般		
	1	高知出身者の人口流出や高知に訪れた観光客が「高知に戻りたい」「もう一度高知へ」と感じてもらえる「理由」として、この県芸術文化振興ビジョンがつながっていくようにならないか。
	2	県や市町村、文化財団、美術関係団体、美術館・博物館、大学、地元メディアなどで構成する「高知県文化推進協議会(仮称)」といった場があれば、地域芸能や文学活動、音楽活動、若手アーティスト支援まで幅広く議論できる。
	3	若者だけではなく、全属性の人材について、高知県への愛着心を増やす必要。
	4	国の動向を踏まえるのは重要であるが、国の指針そのままではなく、高知県としての視点で書くべきではないか。
	5	高知県全体の計画に文化芸術を位置付けるためにも非常に重要。
	6	次期ビジョンでも基本理念を踏襲するのであれば、「文化芸術の力で心豊かに暮らせる」とはどのような状態かについて具体的に記載すること、そして、「文化芸術の力で心豊かに暮らせる」ことが人口減少対策としても重要な点という点を記載して県全体の計画にビジョンを位置付けることが必要。
	7	現状把握とビジョンの方向性の検討を行うべき。
	8	「心豊かに暮らせる」とはどのような社会なのかを具体的に示すことが必要。
	9	現行の「環境づくり」「人づくり」「地域づくり」の3つを基本としつつ、それぞれについて「どのような状態を目指すのか」という中間アウトカムを明確にすることを提案。
基本方針1 文化芸術を身近に感じることができる環境の充実		
	1	高知は全国に先駆けて県内在住の芸術家、文化の担い手に対しある一定の条件をクリアする者に対しアイルランドやドイツ、その他の国々のように「文化、芸術家助成金」を設けるべきだと思います。施設よりも文化継承、芸術家に(人間に)投資をするべき。
	2	令和9年度以降の高知県文化芸術振興ビジョンに県展の持続可能性と官民協働体制の構築を明記、高知県文化行政の中核に位置付けるよう強く要望する。
	3	県展のような県民参加型・県域型文化事業を高知県の文化基盤として位置づけることは政策的意義があると思う。人口減少、少子高齢化で県展の運営は岐路に立っており、維持していくために参加者の負担増をお願いしている状況。「県展をどう支えるか」ではなく、「県民の創造活動を支える仕組みをどう維持するか」という視点が必要。
	4	共生社会の実現に向けて障害者文化芸術活動の推進や、医療・福祉・地域包括ケアと融合した文化プログラムを強化し、県民全体のウェルビーイング(心豊かな暮らし)向上に繋げる取組が必要。
	5	多くの観客の前で芸能等を披露することで関係者は大きな達成感が得られるものとする。そのためには販促告知などへの投資と共に、より人口の多くアクセスのよい地域を展開拠点とし、イベントを仕掛けるべきではないか。
	6	先輩演者の輝く姿が多くの若者の目に映る機会を創出すべき。一方で既に、若者による伝統文化への積極的参画の芽は少しずつ育まれつつある為、若者自身が直接感動を与えることも可能となってきている。この若い諸団体がコラボレーションする機会の提供も効果が高いと考える。これらの活動が関係人口の増加に繋がり、いつかUターンによる人口施策への貢献も果たせるようになるのではないか。

項目	No.	意見の概要
基本方針2 文化芸術を「支えるひと」を育む		
	1	「キャリア教育」「人づくり」とうたわれているが、具体的にはどのようなことを実施するのか。単発のレクチャーなどをばらばらと開催するだけでは、単なる一過性のイベントとなるだけで人を育てることには繋がらないと考える。
基本方針3 文化芸術を活用した地域振興		
	1	県外への固有の歴史文化をアピールすることは、保存と公開の機会を増やすために重要だが、文化は決して観光のように消費するものではないことを念頭に置く必要。
	2	農業、漁業、林業、教育、医療や介護の経済活動の中に、歴史や文化的な意味を投影し、活用することにより、地域文化を残すことの手段となる。
	3	デジタルアーカイブについても、県民が調査研究、編集に協力する体制をとることにより、より詳細で特異な文化も残しやすくなる。
	4	「よさこい」「食文化(100年フード)」「土佐和紙・打刃物」などの地域固有資源を、デジタル技術やインバウンド観光と高度に融合させ、持続可能な経済循環とクリエイティブ産業の創出を図ること。
	5	南海トラフ地震が発生した場合、上記の課題は更に加速するため、文化芸術の防災についても本格的な対応が求められる。
	6	相乗効果を狙った仕掛け(コラボ等)を実施することでひいては地域振興に役立つのではないかと。
	7	観光との連携を図りながら取組み、県民や企業等が経済効果を実感し、有形無形の支援が広がる流れは作れないか。そうすることで文化芸術演者が経済的に自走できる事にも繋がる。
	8	行政・民間の努力により定期チャーター便の就航、クルーズ船の寄港数増など、来県するルート作りは進んでいる。その中で魅力発信コンテンツとして文化芸術を大いに活用すべき。
	9	現骨子では、「人口減少対応・若者定着」「観光」といった他分野への貢献が求められているが、同様に「防災」についても加えるべきではないか。
	10	国の主導で進められている市町村の「文化財保存活用地域計画」は重要な試み。県としてその必要性を訴え、支援することが必要。
	11	地域調査に力を入れている高知城歴史博物館だけでなく、民俗文化や仏像などを対象とする歴史民俗資料館も連動して、もっと地域調査や地域支援に文化施設の活動の比重をおくことも、今こそ力を入れるべきことだと思う。
	12	地域文化を守る拠点として博物館を位置づけ、文化資源を蓄積する場として文化施設を活用する必要。
	13	高知県の全域で、祭りや妖怪、寺社、建物など何かのテーマをもったパンフレットを作成し、県内を周遊させる仕掛けを作ることは学習としても、観光としても有効な手段。
	14	高知県ならではの文化政策として、南海トラフ地震をはじめとする災害と向き合ってきた歴史を「災害文化」として捉え、文化政策の視点から保存・継承・活用することを提案。
数値目標		
	1	基本方針2に「高知の文化芸術を育む人づくり」が入ったことは重要なこと。ただ、その具体策について文化イベントの開催数がまず上がっている点については再検討が必要。
	2	一過性のイベント回数や観光客数のみを成果指標とすると、本質的な文化振興と剥離するおそれ。地域文化の継承状況や、県民の日常的なアクセス環境の改善度など、文化基盤の強化に直結する評価指標の検討が必要。
	3	利用者数等の数字の評価だけでなく、定性評価も必要。
	4	数値目標は重要だが、数値の達成が目的化してしまうことを危惧する。
	5	社会的・経済的波及効果ばかりが前面に出てしまうことで、文化芸術が持つ固有の価値(表現の多様性、批評性、創造的実験など)に対する視点が希薄となり、文化芸術が単なる手段となってしまうことも懸念する。数値目標の案が示されているが、専門家による定量的・定性的な評価や、鑑賞の数ではなく質や深さを測る指標を設定すべき。

項目	No.	意見の概要
県立文化施設の果たすべき役割		
	1	県立文化施設の果たすべき役割の明確化は、各施設の存在意義を示すうえで重要。展覧会や教育普及などイベント性のある取り組みだけでなく、収集保存、調査研究といった、博物館活動の根幹をなすコアな使命についても明記してほしい。
	2	10年間のビジョンでは、各施設の具体的な役割を細かく規定するのではなく、文化芸術の保存・継承、調査研究・創造、鑑賞・参加機会の提供、人材育成、地域・学校等との連携、発信など、県立文化施設に共通する役割・使命を示すことを提案する。
文化芸術振興組織（アーツカウンシル）		
	1	高知県文化財団から民間への事業委託（指定管理者制度や民間の専門文化団体・NPO等の活用）への移行を提案する。民間委託により、専門的な知識と実績を持つ文化マネジメント人材が現場主導で柔軟かつ迅速な支援を行えるようになり、外郭団体主導の硬直化を防ぐとともに、地域に根差した多様なニーズに応える持続可能な体制が構築できる。
	2	アーツカウンシル東京やアーツカウンシル静岡のように、プログラムディレクター（PD）やプログラムオフィサー（PO）といった専門人材の伴走型支援を充実させ、単なる資金助成にとどまらず企画・広報・資金調達（ファンドレイジング）まで一体的に支援する体制を整えること。
デジタル化の推進		
	1	図書館、文書館、博物館（MLA）等が一体となった包括的なデジタル化を進め、単なる画像公開にとどまらず、オープンデータとして活用する方向での検討を求める。
	2	デジタルアーカイブとともに「デジタルアートの活用促進」が謳われているが、具体的にどのようなものを想定しているのか不明瞭。「デジタルアーカイブ」は改正博物館法にも盛り込まれ今後必要な取り組みとなっていくものだが、「デジタルアート」はこれと並び立つ概念ではない。プロジェクションマッピングなどといった、首都圏の代理店や業者が儲かるだけで、本県の文化芸術振興には繋がらない、一過性のイベントを誘発する根拠となってしまうのか懸念する。
その他		
	1	完成した企画を県外から持って来るのみではなく、高知独自の企画を発信して、高知の人に愛着を持ってもらえるような取組が必要。
	2	県内の小・中・高は良く奮闘している。子どもの個性を埋没させないためには教育関係者がグローバルな視点をもつべきである。また、世界を知り、交流を深め、異文化理解を理解するためにも、ジョン万の生誕地らしく、国際共通語としての英語力の飛躍的向上を目指すことが必要。

1 環境の変化を捉えた改定の方角性

- 人口減少と少子高齢化の進行
- 新型コロナウイルス感染症の影響
- デジタル化のさらなる進展
- 国の文化政策の動向



2 第1期の振り返り（平成29年度～令和8年度）

（1）主要なできごと

- 文化振興の拠点となる施設が次々と開館
 - ・高知城歴史博物館 開館（平成29年）、坂本龍馬記念館 リニューアル（平成30年）、オーテピア高知図書館 開館（平成30年）、高知まんがBASE 開館（令和2年）
 - ・牧野植物園 南園周辺エリアのリニューアル（令和7年）
- 文化資源を活かした観光振興施策の推進
 - ・「志国高知 幕末維新博（平成29年～30年）」、「牧野博士の新休日（令和5年）」、「どっぷり高知旅キャンペーン（令和6年～）」
- 新型コロナウイルス感染症への対応
 - ・まんが甲子園のオンライン開催 など
- 人口減少に対応した文化振興施策の推進
 - ・伝統芸能の担い手確保に向けた取組、中山間地域へのアーティスト派遣 など
- 「よさこい高知文化祭2026」の開催
 - ・文化振興に向けた機運のさらなる高まり



よさこい高知文化祭2026

（2）基本方針ごとの主要な取組の概要

【基本方針1 文化芸術を通じた県民の心の豊かさの向上】

- 高知県芸術祭や「よさこい高知文化祭2026」の開催、県立文化施設による魅力的な企画展示等を通じて、県民が文化芸術に触れる・発表する機会を創出

【基本方針2 高知固有の文化の継承及び活用】

- 文化財の保存に係る補助金や高知城の耐震対策の取組等を通じて、文化財の保存及び活用に関する取組を推進
- 県史編さんについては、編さん体制の拡充や広報誌を通じた啓発活動等を通じて、県史編さんを推進
- 伝統芸能の発表機会の充実や担い手の確保に係る取組を新たに開始するなど、伝統芸能の保存・継承に向けた取組を強化

【基本方針3 県民一人ひとりの文化芸術への参加意識の向上】

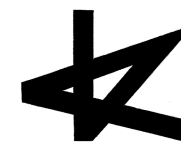
- 県立文化施設による教育普及事業の充実により、幼少期から文化芸術に触れる機会を充実
- 高知県オールパワー文化展や高知県障害者美術展（スピリットアート展）の開催を通じて、高齢者、障害者の文化芸術活動を促進

【基本方針4 文化芸術を活用した地域の振興】

- 本県の文化資源を活用した観光キャンペーンの推進や「まんが甲子園」の開催、まんがを活用した人材育成の取組等、文化芸術を活かした地域振興施策を展開

【文化芸術振興の推進体制】

- 文化芸術振興組織（アーツカウンシル）により、文化芸術の情報発信（文化芸術HP「芸事図鑑」）や中山間地域における文化芸術を発表する場や触れる機会を創出



高知県芸術祭



どっぷり高知旅
SUPER LOCAL KOCHI

3 基本的な考え方

(1) 策定の主旨

- 文化芸術は、県民が心豊かな生活を送るための重要な要素であるとともに、観光、まちづくり、福祉、国際交流、教育等、幅広い分野に関連し、様々な価値の創出、地域振興などに寄与するもの
- 本県では、「高知県芸術文化振興ビジョン」（平成18年策定）、「高知県文化芸術振興ビジョン」（平成29年策定）により文化振興施策を推進してきたところ
- この間の人口減少をはじめとする社会状況の変化や国の文化政策の動向等を踏まえ、「第2期高知県文化芸術振興ビジョン(仮称)」を策定

(2) ビジョンの位置づけ

- 人口減少対策のマスタープランである「高知県元気な未来創造戦略」を文化芸術の観点より補完する個別計画であり、その他の県の関連する計画との整合を図りながら策定

(3) 文化芸術活動を担う主な主体とその役割

- 県民（本県の文化芸術振興の「主役」として、県民一人ひとりが自由かつ主体的に文化芸術活動に取り組み、県内の文化芸術の底上げにつながることが期待）
- 県（市町村や文化芸術団体、教育機関、企業等と連携・協働し、本県の文化振興施策を推進）
- 市町村（住民に身近な自治体として、地域の文化芸術団体や学校などと連携し、文化芸術に親しむ機会のさらなる提供促進を期待）
- 文化施設（地域における文化芸術振興の「拠点」として、多様な文化芸術に触れる機会の提供や調査研究の推進などを期待）
- 文化芸術振興組織（アーツカウンシル）（文化芸術振興に向けた「中間支援組織」として、文化芸術団体への支援等を実施）
※文化施設（県立）、文化芸術振興組織（アーツカウンシル）については、「果たすべき役割」の詳細を後掲

(4) ビジョンの対象範囲

- 文化芸術基本法で挙げられている各分野を基本とする

(5) 対象期間

- 令和9年度から令和18年度までの10年間（5年目で中間改定を実施）

4 基本理念

- 基本理念「**文化芸術の力で心豊かに暮らせる高知県**」
 - ・文化芸術は音楽や美術、演劇のような特別な場だけではなく、私たちの暮らしや人生に関わる身近なものであり、人の心を豊かにし、地域への誇りや愛着、社会をより良いものに代えていく力の源泉
 - ・地域づくりや産業振興、福祉、教育などあらゆる場面で文化芸術の果たす役割は大変大きい
 - ・県民一人ひとりの暮らしの足元に文化芸術があり、多くの県民が自由に文化芸術に関わることで、幸せを感じられる高知県を目指す

5 ビジョンの数値目標

- ① 日頃、文化芸術に触れる機会（鑑賞など）がある県民の割合 ●% → ●%
 - ② 日頃、文化芸術活動（演奏、創作など）を行っている県民の割合 ●% → ●%
 - ③ 文化芸術が様々な分野（地域づくり、観光、産業、健康・福祉、教育、国際交流 等）に役立っていると感じる県民の割合 ●% → ●%
- ※ 基準値および目標値については、現在実施中の県民世論調査結果をもとに検討のうえ、決定



基本理念：「文化芸術の力で心豊かに暮らせる高知県」

＜ビジョンの数値目標＞

- 1 日頃、文化芸術に触れる機会（鑑賞など）がある県民の割合 ●% → ●%
- 2 日頃、文化芸術活動（演奏、創作など）を行っている県民の割合 ●% → ●%
- 3 文化芸術が様々な分野（地域づくり、観光、産業、健康・福祉、教育、国際交流 等）に役立っていると感じる県民の割合 ●% → ●%



3つの基本方針に基づく施策を有機的に連動し、文化芸術振興に向けた好循環を実現

【基本方針1】

文化芸術を身近に感じることができる環境の充実

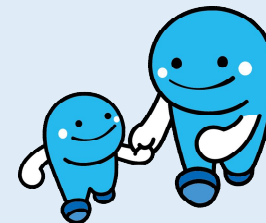
- 多様な文化芸術に触れることができる機会の提供
- 文化芸術活動への支援
- 文化施設をハブとした取組の推進
- 誰もが生涯にわたり楽しむことのできる環境づくり

高知の文化芸術の
土台を形成

【基本方針2】

文化芸術を「支えるひと」を育む

- 将来の文化芸術を支えるひとの育成
- 文化芸術を活用した地域を支える人材の育成



文化芸術の土台を「地域振興」に活用

地域振興により環境の
充実が加速！

【基本方針3】

文化芸術を活用した地域振興

- 地域特有の文化の保存・継承・活用
- 観光や産業等の振興につながる文化芸術の活用

地域振興により「支える
ひと」の育成が加速！

基本方針 1 文化芸術を身近に感じることができる環境の充実

【基本方針 1 が目指すもの】

年齢や障害の有無、お住まいの地域などに関わらず、県民誰もが望む形で文化芸術を身近に感じることができる高知県を目指します。

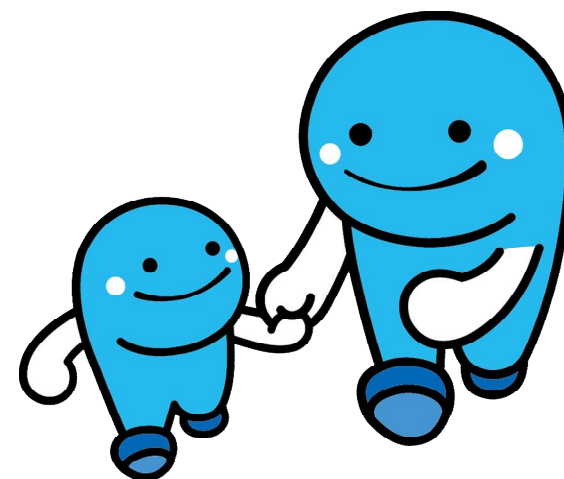
柱	主な施策	具体的な取組
(1) 多様な文化芸術に触れることができる機会の充実	拡 ①様々な地域で文化芸術に触れることができる場の創出	● 高知県芸術祭の開催 ● 中山間地域へのアーティストの派遣
	拡 ②県立文化施設での鑑賞機会の提供	● 利用者の満足度の高い魅力的な企画展等の開催 ● 幼少期から文化芸術への関心を醸成する教育普及活動の実施
	③文化芸術情報の県内外への発信	● 文化広報誌の発行 ● SNSやホームページ等、様々な媒体を活用した情報発信
	P ④市町村等との連携・協働による文化芸術活動のさらなる活性化	● 「よさこい高知文化祭 2026」を契機に生まれた地域のネットワークを活かした取組の推進 ● 市町村等との連携強化
(2) 文化芸術活動への支援	①団体や個人の発表機会のさらなる創出	● 高知県芸術祭における文化芸術団体への助成の実施 ● 中山間地域へのアーティストの派遣（再掲） ● 伝統芸能大会の開催 ● 県内外の催しへの活動団体の派遣
	新 ②アーツカウンシルによる文化芸術活動の促進	● 文化芸術に関する情報収集・発信 ● 文化芸術活動の促進に向けた相談対応・伴走支援や関係者同士のネットワークの構築支援
(3) 文化施設をハブとした取組の推進	新 ①施設間連携による鑑賞機会の充実	● 県立文化施設と各地域の文化施設が連携した企画展等の実施 ● 公民館等での講座の開催
	②県立文化施設の利用促進	● 着実な調査・研究の実施 ● 利用者の満足度の高い魅力的な企画展等の開催（再掲） ● 幼少期から文化芸術への関心を醸成する教育普及活動の充実（再掲）
(4) 誰もが生涯にわたって楽しむことのできる環境づくり	拡 ①高齢者、障害者の文化芸術活動の促進	● オールドパワー文化展、スピリットアート展の開催 ● 障害者を対象とした文化芸術活動への支援 ● 障害者の支援者への講習及び相談窓口の設置等 ● 文化施設における環境整備

基本方針 2 文化芸術を「支えるひと」を育む

【基本方針 2 が目指すもの】

豊かな感性と創造力、本県特有の文化芸術への誇りや愛着を育むことで、文化芸術を担い支える人が育つ高知県を目指します。

柱	主な施策	具体的な取組
(1) 将来の文化芸術を支えるひとの育成	① 幼少期から文化芸術に親しみ参加する 機会の充実	● 県立文化施設による教育普及活動の実施 ● 中山間地域へのアーティストの派遣（再掲） ● 大学との連携によるキャンパスメンバーズ制度の実施 ● 大学への出張講座の実施
	② 児童生徒の文化芸術活動の促進	● 高知県教育文化祭の開催への支援 ● 高知県高等学校総合文化祭の開催への支援 ● 文化部活動の地域連携・展開への対応
(2) 文化芸術を活用した地域を支える人材の育成	① 歴史文化を担う人材の育成	● 伝統芸能の担い手の育成
	② 歴史人材の育成	● 歴史調査を担う人材の育成 ● 県内文化施設を対象とした歴史資料の調査研究への支援
	③ コンテンツ産業の担い手の育成	● 「高知まんがBASE」によるまんが人材の育成 ● アニメ産業を支える人材の育成



基本方針 3 文化芸術を活用した地域振興

【基本方針 3 が目指すもの】
豊かな自然や歴史に育まれた本県特有の多様な文化芸術活動や地域で大切に引き継がれてきた文化資源を次世代に継承するとともに、産業振興や地域の活性化につなげることで、活力あふれる高知県を目指します。

柱	主な施策	具体的な取組
(1) 地域特有の文化の保存・継承・活用	①文化財の保存及び活用に関する支援	● 各地域の文化財の保存・活用 ● 高知城の保存・活用 ● 自然災害の発生に対応した文化財レスキューの実施 ● 伝統芸能の担い手確保への支援（再掲） ● 伝統芸能大会の開催（再掲） ● 県内外の催しへの伝統芸能保存団体の派遣
	②食文化の伝承	● 郷土料理等の伝承や県内外への情報発信
	③伝統的工芸品等の保存、活用	● 高知国際版画トリエンナーレ展への支援 ● 伝統的工芸品産業等の後継者育成への支援
	④遍路文化の保存、伝承と活用	● 四国遍路の世界遺産登録に向けた札所寺院の保護措置等の推進及び気運醸成 ● 日本遺産「四国遍路」を活用した観光誘客
	⑤県史の編さん・活用	● 歴史資料の調査 ● 県史を刊行 ● 県史や調査成果を活用した広報啓発 ● 若者の郷土への関心や愛着を醸成するための人材育成や資料調査見学等の実施
	⑥県立文化施設の利用促進（再掲）	● 着実な調査・研究の実施（再掲） ● 利用者の満足度の高い魅力的な企画展等の開催（再掲）
(2) 観光や産業等の振興につながる文化芸術の活用	①文化芸術を活用した観光振興	● 文化資源を活用したキャンペーン等の開催 ● 県内の文化施設と提携した「龍馬パスポート」の発行 ● 文化観光資源の発掘、磨き上げ等への支援 ● 「よさこい」の活用
	②「まんが王国・土佐」のブランド化の推進	● 「まんが甲子園」の開催 ● 「高知まんがBASE」によるまんが人材の育成（再掲）
	③アニメプロジェクトの推進	● アニメ産業の集積に向けた企業誘致 ● アニメ産業を支える人材の育成（再掲） ● アニメ関連の仕事や制作の魅力を学び知るイベント等の開催

県立文化施設の果たすべき役割（※たたき台）

県立文化施設(※)の一義的な使命（ミッション）は、本県特有の豊かな文化や動植物などの意義や素晴らしさを県民、利用者に伝えることです。
この使命（ミッション）の達成に向けては、人口減少下においても持続的な施設運営が必要です。
このためには、着実な調査・研究を基礎としつつ、企画、宣伝などにおいて民間事業者の参画促進を図ることにより、県民のニーズを捉えた魅力的かつ付加価値の高いサービスの提供など、利用者のさらなる獲得に向けた取組が求められます。
そこで、基本理念である「文化芸術の力で心豊かに暮らせる高知県」の実現に向けて、今後10年間の県立文化施設の果たすべき役割や取組の方向性を定め、具体的な取組を推進します。

(※) 県立のうち、登録博物館または博物館に相当する施設及び文化振興を主目的とするホール・文化会館等

美術館

施設の特徴	県内最大の美術館である県立美術館では、シャガール・コレクションをはじめとする所蔵品や企画展示を通し、国内外のさまざまな美術に触れる機会を提供すると同時に、本県ゆかりの近代・現代のアーティストも取り上げ、発信しています。加えて、多様な美術を身近に親しんでいただけるよう、子どもから大人まで幅広い世代を対象に、教育普及活動も行っています。さらに、開館20周年の平成25年には、本県ゆかりの国際的写真家・石元泰博の膨大な作品・資料を核とした石元泰博フォトセンターを開設し、石元泰博の作品の素晴らしさを普及しています。 また、もうひとつの個性として、館内に可動式能舞台を持つホールを併設しています。この施設を活用し、企画展等と連動した舞台芸術や映画などのさまざまなプログラムを展開しています。 このように美術を軸としつつも多様な芸術を視野に入れながら、楽しみ、学び、交流する場として、芸術の豊かさと面白さを利用者に伝えていきます。 ◎住所：高知県高知市高須353-2 ◎設置：平成5年11月3日
施設の役割	・優れた芸術の魅力を伝えとともに、独自のコレクションを後世に伝える ・来館者のさらなる獲得に向けた県民ニーズを捉えた付加価値の高いサービスを提供する ・施設の特性を活かして、まちづくりや観光、福祉等の多様な地域課題の解決に寄与する
取組の方向性	【収集・保存】 収蔵スペースを考慮しつつ、施設の収集方針に基づき資料を収集し、適切な保存・管理を行う ・本県出身の作家を中心として、特色ある資料の充実を図る 【調査・研究】 収蔵資料の調査・研究を進め、その成果を公開する ・石元泰博コレクションの調査・研究を進めるとともに、作品の情報を発信し、適切な利活用を図る ・調査結果の成果を展示や図録・記録集の作成、広報媒体を通して広く発信する 【展示・公開】 質の高い、優れた芸術に触れる機会を多くの観覧者に提供し、芸術や文化に対する関心を深めるとともに、満足度の向上を図る ・世界有数のシャガールコレクションの展示など、県民ニーズを捉えた魅力的な常設展・企画展を開催する ・幅広い世代が楽しめるホール事業（定期上映会等）を展開する ・観覧者の芸術文化への理解を深めるため、講演会やギャラリートークなどを開催する 【教育・普及】 様々な年代を対象とした教育普及活動を行い、芸術文化に親しみを醸成する ・学校や教育委員会等と連携し、出前講座等を開催する ・多くの県民に対して、多彩なワークショップ等を開催する 【広報】 様々な広報媒体（SNSを含む）を用いた戦略的な情報発信により、県内外に館の魅力を広める 【地域連携】 様々な主体と連携し、まちづくりや観光、福祉等の地域課題の解決に向けて、施設の特性を活かした取組を推進する



文学館

施設の特徴

県立文学館は、文学その他芸術文化に関する県民の知識及び教養の向上を図り、県民文化の振興に寄与することを目的に開館しました。基本理念は、本県ゆかりの文学者を顕彰し、高知の文学の魅力を伝えること、県民の文学への関心を高めることの2つです。寺田寅彦や宮尾登美子をはじめとする高知県ゆかりの文学者をご紹介している常設展では、定期的にスポットを当てる作家を入れ替え、いつ来ても新しい発見がある展示を目指しています。企画展では様々なテーマで文学の楽しさや奥深さをご紹介しています。そして展示に関連したイベントも実施しています。ユーモア溢れる企画展の開催などを通じて、文学の面白さを幅広い世代に伝えていきます。

◎住所：高知県高知市丸ノ内1-1-20 ◎設置：平成9年11月2日

施設の役割

- ・優れた文学作品に触れる機会を提供し、文学の楽しさを伝える
- ・来館者のさらなる獲得に向けた県民ニーズを捉えた付加価値の高いサービスを提供する
- ・施設の特性を活かして、まちづくりや観光、福祉等の多様な地域課題の解決に寄与する



取組の方向性

- 【収集・保存】** 収集方針に基づき県関係の作家の資料を収集し、適切に保存するとともに、収蔵スペースを考慮した適切な書庫管理を行う
- ・作家や関係者との信頼関係を築き、特色のある資料の充実に努める
 - ・資料の整理・分類、点検・劣化防止等の処置を適切に行う
- 【調査・研究】** 職員の専門性の向上を図るとともに、高知の文学や作家に関する調査研究を進め、その成果を展示や広報媒体などを通じて、広く公開する
- ・収蔵資料の調査研究を進め、その成果を公開する
 - ・県関係の作家の資料を収集し保存する
 - ・大学等との連携により調査研究を進め、その公開に努める
 - ・豊かな風土に育まれた土佐文学の歴史を研究し、未来にその業績を伝える
- 【展示・公開】** 文学の楽しさを伝えるとともに、近代文学史のうえで重要な位置を占める土佐文学を誇りに感じることでできる文学館を目指す
- ・様々な年代の方を対象にした魅力的な常設展示や企画展示を企画し、文学の魅力を伝える質の高い展覧会を開催する
 - ・寺田寅彦や宮尾登美子等の高知を代表する作家を紹介すると共に、土佐文学の全国発信を進める
 - ・次世代を担う子ども達に喜びと感動を与え、創造性豊かな心を育む企画展示を行う
 - ・ギャラリートークの実施など、利用者の理解が深まる取り組みを行う
- 【教育・普及】** 様々な年代を対象とした教育・普及活動を行う
- ・学校や教育委員会等の関係機関と連携を図り、多彩な年代に応じた教育プログラムの実施により、利用者が文学に触れる機会を充実させる
 - ・優れた文学作品に触れる機会を充実させ、文学や文学表現への興味や関心を養う
 - ・これからの高知県を担う子どもたちが多くの文学作品に触れることで、豊かな心を育むことのできるプログラムを充実させる
 - ・文学活動に取り組む団体や個人の活動を支援し、文学活動の裾野を広げる
- 【広報】** 様々な広報媒体（SNSを含む）を用いた文学館活動に関する戦略的な情報発信により、県内外に館の魅力を広める
- 【地域連携】** 様々な主体と連携し、まちづくりや観光、福祉等の地域課題の解決に向けて、施設の特性を活かした取組を推進する

坂本龍馬記念館

施設の特徴

開館以来35年を数える坂本龍馬記念館では、龍馬本人や、龍馬が生きた「幕末」という時代、「土佐」という地域など、今はない「過去」を知る手がかりとなる貴重な資料を収蔵しています。

新館では龍馬に関する歴史資料を一堂に展示し、年6回程度開催する企画展では龍馬の魅力を広く伝えています。本館ではパネルなどの体験型展示が充実しており、幕末について楽しく学ぶことができます。

県内外の皆さまが正しく、楽しく学べる場を提供し、龍馬の「柔軟な発想」「世界に目を向けた見識」「果敢な行動力」などを新しい世代へ伝えていきます。

◎住所：高知県高知市浦戸城山830 ◎設置：平成3年11月15日

施設の役割

- ・坂本龍馬を正しく理解するため、その志と業績を具体的に示した資料を整える
- ・学校での歴史学習などに役立つ資料や場の提供や、生涯学習の場としての内容と機能の充実を図る
- ・「桂浜」や「龍馬像」に隣接する立地を生かし、龍馬を核とした事業の実施などにより、観光資源としての魅力の充実を図る

取組の方向性

【収集・保存】 収蔵スペースを考慮しつつ、施設の収集方針に基づき龍馬に関する資料を収集し、適切に保存する

- ・龍馬の歴史上の功績やその意義深さを後世に伝えるうえで必要な資料の収集に努める

【調査・研究】 職員の専門性の向上や収蔵資料のデジタル化を図るとともに、龍馬やその関連分野に関する調査研究を進め、その成果を広く公開する

【展示・公開】 魅力ある展示やサービスの提供により、龍馬に関する情報を正しく伝える

- ・来館者に龍馬の志や生涯を深く理解してもらえる魅力的な常設展・企画展・特別展を開催する
- ・龍馬に関する専門施設として、レファレンスサービスや学芸員による展示開設など、来館者の理解が深まる取り組みを充実させる

【教育・普及】 様々な年代を対象とした教育・普及活動を行う

- ・学校や教育委員会等の関係機関と連携を図り、子どもたちの幕末維新や土佐の歴史を学ぶ機会を充実させる
- ・龍馬に関する講座やシンポジウムの開催など、龍馬への県民の理解が深まる取り組みを充実させる
- ・夏休み期間のシーズナルイベントなど、子どもたちが龍馬に親しみを持てる企画を開催する

【広報】 様々な広報媒体（SNSを含む）を用いた情報発信により、新たなファン層の拡大とリピーターの定着を図る

- ・来館者が龍馬に宛てて手紙を書く「拝啓龍馬殿」など、来館者の思いをくみ上げる取り組みを継続して行うとともに、その内容を活用し効果的な広報を行う



歴史民俗資料館

施設の特徴

歴史民俗資料館が立地する岡豊山は、四国を代表する戦国武将・長宗我部氏がかつて城を構えた場所です。長宗我部氏ゆかりの地に建つという特性を活かし、同氏と岡豊城跡に関する資料を揃えた長宗我部展示室を設けています。そこでは、阿波・中富川合戦時の長宗我部軍本陣を再現しており、戦国時代の雰囲気を感じることができます。

また、本県の歴史・考古・民俗・美術工芸の分野を対象とする県内唯一の歴史系総合博物館であり、総合展示室では、各分野を一つの空間に展示しており、土佐の人々の歴史・文化・くらしを多角的にみることができます。

このように、様々な角度からこれまでの歴史の積み重ねを学べる場を提供し、郷土の歴史や文化を後世に引き継いでいきます。

◎住所：高知県南国市岡豊町八幡1099-1 ◎設置：平成3年5月3日



施設の役割

- ・中世史や長宗我部氏を中心に、高知県の考古・歴史・民俗の調査研究を進める
- ・学校教育と連携した教育普及活動や、県民一人ひとりが歴史や文化を学ぶ機会の充実を図る
- ・岡豊山周辺を歴史的な好奇心を高めるゾーンとして位置づけ、関係機関と連携し地域の活性化に貢献する

取組の方向性

- 【収集・保存】** 収蔵スペースを考慮しつつ、施設の収集方針に基づき、高知県の歴史、考古、民俗の各分野の資料を収集し、適切に保存する
- ・公開承認施設にふさわしい資料の保存・展示環境の維持・管理を行う
- 【調査・研究】** 職員の専門性の向上や収蔵資料のデジタル化を図るとともに、高知県の歴史、考古、民俗の各分野の調査研究を進め、その成果を公開する
- ・長宗我部氏関係の資料の研究を進め、展示などを通じて広く公開する
- 【展示・公開】** これまでの歴史の積み重ねのうえに現在の高知県があることを伝え、その歴史を未来に伝える
- ・公開承認施設として、貴重な資料の公開など魅力ある企画展示を行う
 - ・レファレンスサービスや展示解説など、郷土の歴史や文化への理解を深めるためのサービスを充実させる
- 【教育・普及】** 様々な年代を対象とした教育・普及活動を行う
- ・学校及び教育委員会と連携を図り、子どもたちの歴史や文化に触れる機会を充実させる
 - ・県民が郷土の歴史や文化に親しむことができる講演会や講座などを開催する
 - ・子どもたちが楽しんで学べる夏休みのイベントや、岡豊山さくらまつり・長宗我部フェスなど地域の活性化にもつながる企画を開催する
- 【広報】** 様々な広報媒体（SNSを含む）を用いた情報発信により、積極的に県内外に館の魅力を広める

高知城歴史博物館

施設の特徴

国宝・重要文化財を含む約6万7千点におよぶ高知城主・土佐藩主山内家に伝わった貴重な歴史資料・美術工芸品（「山内家資料」）を中心に、土佐藩や高知県ゆかりの資料の数々を収蔵する博物館です。

本物の資料を展示することを基本とし、展示室では約2ヶ月毎に展示物を入れ替えます。さらに、季節やテーマにあわせた多彩な企画展や催し物も開催しています。いつ訪れても、土佐の歴史文化の新たな魅力に出会うことができます。

◎住所：高知県高知市追手筋2-7-5 ◎設置：平成29年3月3日

施設の役割

- ・日本有数の質と量を誇り、学術的・文化的に高い価値を有する山内家資料を、国民共有の文化遺産として確実に後世に継承していく。
- ・資料の調査研究を積極的に推進し、大学などの研究機関との連携を行うことで、全国的な学術史研究の拠点の一つとしての役割を果たす。
- ・常設展示や企画展示・全国巡回展の開催によって、高知の歴史や文化への理解を深める。また、学術研究の結果を広く県内外に発信する。
- ・講座や講演会などの開催により調査研究の結果を生徒学習に活かし、山内家資料を学習教材に活用することなどにより学校教育と連携を深める。
- ・学術研究や文化活動の活性化に努め、県内の文化施設や地域と柔軟に連携し、地域独自の歴史や文化を活かしたイベントなどの企画に協力することで、まちづくりなど地域振興や観光振興に寄与する。

取組の方向性

【収集保存・調査研究】

- ・山内家資料を中心とした収蔵資料の保存活動を最も重視する事業に位置づけ、保存環境の維持、資料修理の実施等により効果的な保存対策に取り組む
- ・山内家資料に限らず、高知県の歴史資料の保存を目的に、収集規定等に基づいて他家からの寄贈・寄託を受け入れ、必要に応じて購入する
- ・公開活用に向けた収蔵資料の基礎調査、県内外に所在する高知県・土佐藩関連の歴史資料の情報収集を主な柱とし、各学芸員が専門分野に応じて分担・計画して取り組む

【公開・展示】

- ・1階・2階エリアと3階の展示室等との一体性を高め、1階や2階を訪れた方を展示室へ誘導する取り組みを行う
- ・各種メディアへの資料提供、館外への資料貸し出し、県内外の研究者や個人調査への協力支援等を行う
- ・映像機器やハンズオン、また展示替えに対応した音声ガイド等、多言語対応や展示のバリアフリー化、低年齢層にも配慮した展示公開を進める

【教育普及・地域連携】

- ・大人から子ども、外国人など幅広い対象に向け、講座やワークショップ等を多様に展開する
- ・地域に関する情報発信を充実させ、地域と連携した取り組みをより深めることで周辺地域との周遊効果を高める取り組みを行う
- ・過疎化、高齢化による文化の消失を防ぐため、地域活動への協力や地域資料の調査、地域の文化施設活動に関わる人材の育成を目的とした講座等を行う

【広報】

- ・ホームページやSNS、チラシ等による効果的な情報発信を行う



牧野植物園

施設の特徴

高知が生んだ「日本の植物分類学の父」牧野富太郎博士の偉業を顕彰するため、博士逝去の翌年に開園した当植物園は、五台山の起伏に富んだ地勢をそのまま活かし、博士ゆかりの野生植物や園芸植物など3,000種類以上が調和するダイナミックな景観と、木造の美しさを際立たせた建築群が一体となった唯一無二の空間を有する植物園です。

園内には、熱帯さながらのジャングル空間を楽しめる「温室」、研究・教育普及の拠点であり、常設展や4K映像をご覧いただける「牧野富太郎記念館（本館・展示館）」、東洋の園芸植物を回遊しながら鑑賞できる「50周年記念水景庭園」、眺望抜群のレストランとショップを備え、植物研究活動の公開と一般市民との交流を図る「植物研究交流センター（ラボテラス）」など、多くの見どころがあり、約8haの広大な自然の中で、四季折々、様々な表情を見せる植物に出会える四国唯一の総合植物園として親しまれています。

◎住所：高知県高知市五台山4200-6 ◎設置：昭和33年4月

施設の役割

- ・牧野富太郎博士の偉業を顕彰し、植物研究を通じて、本県教育文化の向上及び産業振興に寄与するとともに、土佐寒蘭の保護及び知識の普及を図り、県民に対し、憩いの場を提供する
- ・総合植物園として、「植物の収集保存」、「植物の研究」、「植物に関する教育普及活動」、「植物の展示等を通じた憩いの場の提供」といった機能を備え、「牧野植物園磨き上げ整備基本構想」に基づき、次の3つの拠点機能を備えることで、ポテンシャルを最大限に発揮し、世界に誇れる「MAKINO」を目指す
 - ①県民の誇り(シビック・プライド)の拠点、②知(イノベーション)の拠点、③宝の人材を育成する(エデュケーション)拠点



取組の方向性

【植物研究・調査】

- ・牧野博士の業績の顕彰、有用（応用）植物の研究を主軸とし、その基本や関連分野も含めた研究業務に取り組むとともに、教育普及につなげる
- ・応用研究として薬用植物等の分類研究及び栽培・利用技術の開発を図るとともに、食品、薬品、栽培作物等の分野で製品化、産地化に結びつけ、高知県の新たな地域産業の振興に寄与する
- ・高知県の生物多様性保全の拠点機能を有する植物園として貢献するため、野生植物の調査、環境保全の取組、事業者等へのアドバイス等を行う

【栽培植物の管理】

- ・植物の状態を常に把握し、長期的な視点を持って栽培植物の目的や機能が十分発揮できるよう努めるとともに、貴重なコレクションは価値を伝える工夫を行う

【展示・公開・ガイド】

- ・植物の重要性や自然環境全般への興味・理解を促す企画展示を行うとともに、他の施設等との連携を積極的に図り、話題性を高めて園の利用促進を図る
- ・利用者の多様な意見や他の民間事業者の知見等を反映させるなど、魅力的な企画展示・イベントを行うとともに、利用者の満足度を高めるガイドを行う

【教育・普及】

- ・多くの県民に対し、植物、植物と日常生活、文化との関わり、自然環境全般を学ぶ教室や観察会等の機会を提供し、教育文化の向上に寄与する
- ・学校の授業、遠足などの児童生徒の利用を積極的に受け入れるとともに、出前授業を行うなど、学校教育を支援し協力する

【広報】

- ・各広報媒体を適切に用い、海外も含め効果的に情報発信することで、利用促進を図る

のいち動物公園

施設の特徴

県立のいち動物公園は、1986年に都市計画決定された野市総合公園内にある施設であり、1991年11月3日に開設した、高知県初の本格的な動物公園です。

「人も動物もいきいきとした動物公園」を基本理念に、県民の健康の増進と教育・福祉の向上を目的として、敷地面積16.3haと広大な自然環境の中で、檻や柵のない、動物と植物が一体化した生息環境を再現（バイオーム展示）しています。そのバイオーム展示により、子どもたちや家族連れはもちろんのこと、高齢者や障がい者、さらに外国の方など来園者全てが等しくのびのびと動物たちの自然な姿や表情を観察することができるよう整備を行っています。

このように楽しみながら動物の生態を学べる「レクリエーションの場」、「環境教育の場」のみならず、社会教育施設として、「種の保存」、「調査、研究の場」といった役割も果たしています。

また、子どもたちの健やかな成長に寄与する場としての役割を果たす動物展示や企画等を実施し、子どもたちや子育て世帯が気軽に安心して利用できる環境整備を行っています。

◎住所：高知県香南市野市町大谷738 ◎設置：平成3年11月3日

施設の役割

- ・多くの利用者を迎え、種の保存、自然保護の大切さをより多くの方々に伝える
- ・子どもたちの健やかな成長に寄与する場としての役割を果たす動物展示や企画等を実施し、子どもたちや子育て世帯が気軽に安心して利用できる環境を提供する
- ・施設等の維持管理を適切に行い、利用者が安全かつ快適な利用環境を提供する

取組の方向性

【動物の飼育、展示、繁殖】

- ・のいち動物公園コレクションプランに基づいた動物の適正な飼育・展示を行い、かつ（公財）日本動物園水族館協会（JAZA）の種保存事業に貢献できるよう適正な繁殖を図る

【動物の保護及び調査研究】

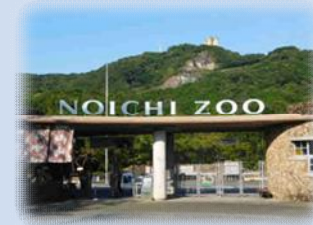
- ・傷病野生鳥獣の保護、野生動物の調査研究などを行うことにより、種の保存や自然保護に貢献する

【教育・普及】

- ・様々な年代を対象とした教育・普及活動（出前授業や飼育実習、職場体験などの教育活動や標本等の貸出など）を行う

【企画広報の実施】

- ・県内外からの利用者を誘致する企画・展示やSNSなどを含む様々な媒体を活用し情報発信を行い動物公園の魅力を広める



県民文化ホール（新来島高知重工ホール）

施設の特徴

当ホールは、多様な文化活動に対応する優れた設備と汎用性を備え、県民の芸術文化活動を支える拠点となる文化施設です。
 主要施設のオレンジホール（大ホール）は、座席数1,507席と高度な音響設備を完備する県内随一の規模を有する施設であり、来場者へ質の高い芸術鑑賞の機会を提供します。あわせて、500席のグリーンホール（小ホール）や多目的室（貸室）を整備しています。これら施設において、大規模公演の開催から日常のサークル活動や発表の場の確保まで、多様な利活用ニーズへ柔軟に対応しています。
 さらに、ジュニアオーケストラや児童生徒向け講習を通じた次代の人材育成、および観客育成に注力するほか、教育機関や他館と連携した共催事業・技術研修により、県全体の文化振興と専門性向上を牽引しています。

◎住所：高知県高知市本町4丁目3-30 ◎設置：昭和51年11月24日

施設の役割

- ・オーケストラやコンサート、演劇などの公演が行われ、質の高い舞台芸術に触れる機会を利用者に提供する
- ・学会、講演会、各種大会、式典などが開催される文化交流の場を提供する
- ・音楽や演劇の練習、カルチャー教室、会議などに利用できる12室の「多目的室」が備わっており、利用者のサークル活動や生涯学習の場を提供する

取組の方向性

- 【施設管理】**
- ・適切な保守点検と安全管理の徹底により、故障や事故のない安定した運営を行う
 - ・迅速な避難・応急対策を構築し、指定津波避難ビルとして一時避難者の円滑な受け入れ体制を整備する
- 【利用促進】**
- ・舞台芸術や日常の文化活動の拠点として利用しやすい柔軟な運営を行い、地域活動を活性化する
 - ・主催者の要望に応じた最適な環境と高品質なサービスを提供し、施設利用率の向上を図る
 - ・「県民目線」を徹底するため、利用者のニーズ調査・分析を定期的の実施し、その結果を施設の機能強化やサービス改善へ継続的に反映する
 - ・SNS等を含む多様な媒体を用いた戦略的な情報発信により、施設の認知拡大と魅力向上を図る
- 【展示・公開】**
- ・広域拠点施設として、大・小ホールの規模や特性にふさわしい音楽・舞台芸術公演を自主企画・実施する
 - ・多種多様な鑑賞ニーズに応えるため、幅広いジャンルから上質な作品をバランスよく選定し上演する
- 【教育・普及】**
- ・自主企画公演と連動したワークショップ等を通じ、将来の文化振興を支える観客層を育成する
 - ・教育機関と連携し、舞台芸術活動を行う児童生徒への講習会や発表機会の提供により次代の人材を育成する
 - ・ジュニアオーケストラ活動を継続し、青少年の健全な育成と支援体制充実によるレベルアップを実現する
- 【地域連携】**
- ・地域社会との「共感」の輪を広げるため、文化・鑑賞団体等との共催事業を推進し、県民の自主的な活動への参加促進と鑑賞機会の拡大を図る
 - ・教育機関や推進団体等との強固な連携により、児童生徒へ質の高い芸術文化に触れる機会を広く提供する
 - ・現場の知見をボトムアップで共有すべく、県内他ホールの職員等を対象に、舞台技術や企画運営の実践的研修・共同公演を通じたノウハウ移転を行い、地域全体の専門性向上に貢献する



文化芸術振興組織（アーツカウンシル）の果たすべき役割（※たたき台）

概要	アーツカウンシルは、文化芸術団体等への伴走支援や様々な文化芸術情報の発信等を通じて、本県のさらなる文化芸術振興に向けた取組を推進する中間支援組織です。 本県では、高知県文化芸術振興ビジョンの策定に合わせ、平成29年度にアーツカウンシルを高知県文化財団に設置し、文化芸術振興に向けた取組を推進してきました。 アーツカウンシルによる文化芸術振興に向けた多様な取組を通じて、県内における文化芸術活動のさらなる促進や地域課題の解決、地域振興に寄与していきます。
役割	・文化芸術団体等への多様な支援を通じ、県内における文化芸術活動のさらなる促進を図る ・文化芸術のポテンシャルを社会の様々な領域に拡げ、地域課題の解決や地域振興に寄与する
取組の方向性	【文化芸術の地域間格差解消に向けた取組】 ・中山間地域へのアーティスト派遣の取組などを通じて、文化芸術に触れることができる機会の地域間格差の解消を図る 【文化芸術団体等の活動の活性化】 ・文化芸術団体等への助成や相談対応、活動に関する情報収集・発信等を通じて、県内における文化芸術活動のさらなる促進を図る 【ネットワークの構築】 ・文化芸術団体等や市町村、教育機関等との連携を通じて、関係者同士のネットワークの構築を図る

